

# ラベル多様化思ひ反映

焼酎の進化は飲み方や味わいにとどまらない。宮崎県日南市の櫻の郷酒造が2021年から受託製造する芋焼酎「EMO」は、ラベルの多様化を物語る。アニメの主人公のようないラベル多様化を物語る。アニメの主人公のようないラベル多様化を物語る。アニメの主人公のようないラベル多様化を物語る。

## 焼酎 新時代 A NEW ERA OF SHOCHU

蔵元に委託してオリジナル商品を作る福岡県の企画者集団「さけのいちぎ」が手がけ、ラベルは同県のイラストレーター・ざしきわらしきんに頼んだ。小平ゆきえ代表は「若いファンの掘り起こしを狙った軽快な味わいと、イラストの空気感がぴたりはまった」と



南九州酒販が数量限定販売する「薩摩六名所六銘酒」

## 世界見据え重要性高まる

■ ■ ■  
ラベルを含めた商品ブランドで、高田恭奈専務(38)は「名前の『花』と、味や香りのフルーティーさを強調したくてこの色合いになつた」と説明する。

アニメキャラクターのような女性をデザインしたEMO (中央) のシリーズ。焼酎のラベルは多様化している=

手応えを語る。  
麦焼酎の「MUGY」、芋焼酎と紅茶を合わせた「EMOT」の3本シリーズで、都会のカフェにも並ぶ。「飲食店の引き合いが増え、焼酎に興味のなかつた人が手に取ってくれている。ラベルの力を感じる」

■ ■ ■  
酒類卸の南九州酒販(鹿児島市)は、県内6蔵元の地元の観光地や祭りをラベルに描く「薩摩六名所六銘酒」を販売する。6本並べ

## 第2部 進化の現在地 ⑤

12年に限定販売したものに復刻。新デザインは奄美大島のイラストレーター・尚味さんが描いた。世界自然遺産の屋久島や志布志市のお漬廻まつりのラベルには、旅情を誘うきっかけになればとの期待がこもる。

熊本県あさぎり町にある高田酒造場の米焼酎「あさぎりの花」のラベルは、パステルカラーのグラデーションが華やかだ。酵母にナチュラルを使つた花酵母の焼酎で、高田恭奈専務(38)は「名前の『花』と、味や香りのフルーティーさを強調したくてこの色合いになつた」と説明する。

金子道宏社長(66)は「20

年前のブームは酒質だけでは、今は蔵の思いも伝えなければ消費者は動かない。ラベルはその手段の一つだ」と語る。さらに焼酎を含む「伝統的酒造り」

のユネスコ無形文化遺産登録に触れ、「言語の壁を越えるデザインの重要性はさらに高まっていく。しっかりとメッセージを伝えられれば、焼酎は日本酒のように世界で勝負できる」と見通した。(宮崎日日新聞・海

ンディングを担う第一紙行(京都)は熊本、宮崎、鹿児島の焼酎50社を顧客に抱える。ここ4、5年、焼酎蔵元から「ジャケ買い」というキーワードが出ることが増えたという。レコードや書籍をジャケットで選ぶことを指す言葉で、焼酎にもネット通販が浸透しつつあることも背景と見れる。



高田酒造場の「あさぎりの花」

アニメキャラクターのような女性をデザインしたEMO (中央) のシリーズ。焼酎のラベルは多様化している=

富崎市・マイバー御屋(宮崎日日新聞・戎井聖書撮影)

宮崎日日新聞 熊本日日新聞 南日本新聞 合同企画

II 第2部おわり